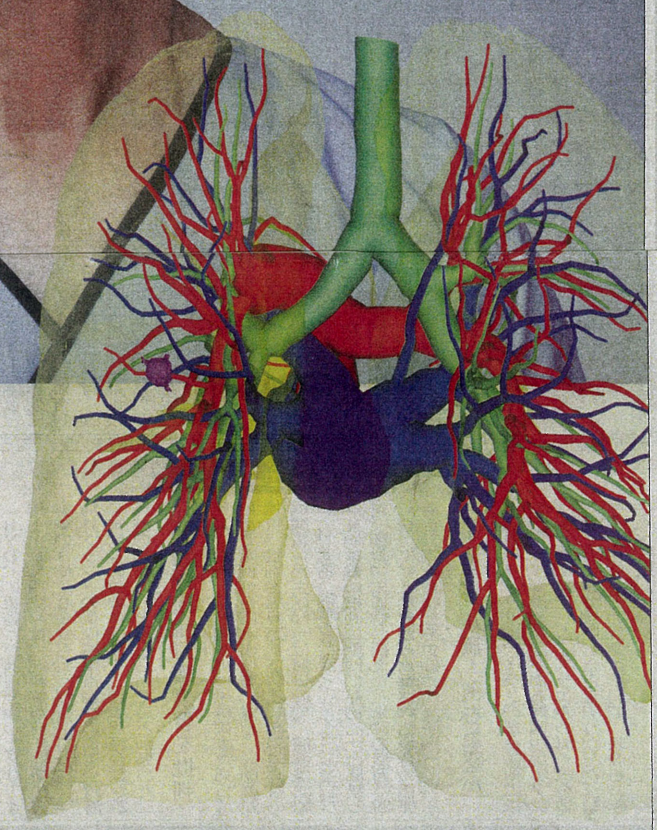
がん手術には、



「命を救う手術だから、どこまでも精密でなければ」

富士フイルムは、3D画像解析ソリューションで、医療の明日をひらきます。

がんで失われる命、世界で年間約820万人。医療が進化する一方で、がん死亡者数は増えつづけています。※
確実に発見して、精密な手術をおこなえば、救える命がある。
富士フイルムが開発したのは、体内の病を立体的に可視化する3D画像解析技術です。
CTやMRIなどの画像を3D解析して、病変部の位置の正確な把握や、手術の事前シミュレーションを可能にしています。
デジタルカメラにも搭載されている、富士フイルムの画像認識技術。
この独自の技術を生かした3Dの臓器画像を自動抽出する性能は、国際的に高い評価を得ているのです。
心臓、呼吸器、消化器から、頭頸部や腎臓や泌尿器などの新たな領域へひろがる医療ITソリューション。
その画像が映し出しているのは、たとえ難しい手術でもあきらめない未来です。

※Ferlay J, Soerjomataram I, Ervik M, Dikshit R, Eser S, Mathers C, Rebelo M, Parkin DM, Forman D, Bray, F (2013). GLOBOCAN 2012 v1.0
世界のがん発生率と死亡率：国際がん研究機関(IARC)報告書No 11から［http://globocan.iarc.fr より閲覧可能］. WHO/IARCは、商標、製品を推奨するものではありません

80th Anniversary

FUJIFILM

Value from Innovation

3D画像解析ソリューション